

外国語教育への思いと期待 2

Ask, and it shall be given you. (Matthew 7, The New Testament)
 求めよさらば与えられん (新約聖書マタイによる福音書 7)
 — 鼻高 1964 年東京五輪組織委員会英語通訳

加 藤 忠 明*

2020 年東京五輪ガイド (?) の仕事が奇跡的に舞い込んできた。

71 歳, 3 月末で, 東京電機大学の勤務もなくなり, 五か国語の売りで, 京都で, 仕事を探した。なかった。4 月 19 日, 市のシルバー人材センターに行く。仕事はあるようだが, 自分の特長は生かせそうではない。ハローワークに行くことにした。そこに, 奇跡的に, 今日から, 募集のかかった東京五輪展示場の警備と案内業務があった。中規模の会社が, 落札し, 五輪や展示品の説明を英語でできる人を初めて採用するところであった。求めよさらば与えられん。そこで, 5 月末まで仕事することとなった。

4 月 20 日

会社に行った。オリンピックと聞くと, 希望が増えるとのことで 20 数名応募があったそうである。タイミングよく最初に行った私が採用された。語学力が買われた。芸は, 時に身を助く。

4 月 24 日に来てくれと言われ, 採用が決まった。25 日は, インターン。自宅から離れたバス停まで, 15 分, 朝 4 時 46 分発の, バス停に向かう。私に引き継ぐ A さんは, 7 時半きっかりに, 都庁北口で待っていた。ポール等片付け, セットをする。警備 5 割と案内が 5 割の仕事だと仰る。確かに, 大会旗を大事に扱わなくてはいけない。アクリル製ケースに入っている。小さい子供達は, バンと突然叩いたり, 高校生は, 仲間と話しながら

らカバンを振り回したりする。誰でも入ってくる都庁舎。色々な方が居る。一日中座り込んで動かないお婆さん, 夏には, 尻を, 出して, ボロボロ掻くそうである。「図書館とか, 公園で過ごされたらどうですか」と後でいうが, 効果はない。30 日間の勤務で, テロリストかもと, 思った外国人も, 1, 2 名いた。テロが起きては絶対いけないが, 可能性はある。都庁は, 厳戒態勢を布いている。閉庁時, 朝 8 時ごろだと警備がおらず, 右翼の街宣車が来たことがあった。真ん中に出て, 手信号で, 左に行くように指示をした。これは, 仕事の範囲外である。初体験, ピストルで撃たれたらとやや恐怖感を覚えた。父は, 昔の陸軍省, 立哨をした写真が残されている。A さんから, 朝は, 都知事と, 局長が車で来る。挨拶をするように, やり方の指導も受けた。目と目を合わせるタイミングが, うまく取れない。挨拶してくれる局長, 下を向いてうつむき加減の局長, 近くを通らない局長色々である。観光客に対応している時は, そちらの業務を優先する。A さんは, 午後 4 時になると, 八王子に行く業務が入り, 一人となる。18 時 45 分, テレビモニターを消して, アクリルケースのカーテンをして, ポール 17 本を元通りにして, 19 時過ぎに帰宅する。一日中, 立ちっぱなしである。30 日間, 行きも帰りの電車もバスも, 立ちっぱなしが多い。15, 6 時間立つことが普通である。

4 月 26 日

同様に, 早朝出て, 6 時に, 会社からの電話を

2017 年 11 月 30 日受付

* 江戸川大学 名誉教授

受け、駅にいる旨伝える。7時半に都庁に上番する。上番とは警備用語で仕事に就くことである。土、日も仕事はある。朝は、3時半起き、これは、年寄りの特技、苦痛ではない。但し、雨戸が開けられない。20時過ぎると、クリーニング屋に出したシャツが受け取れない。毎日、閉めっぱなしである。Bさんが10時から15分、部長が、1時間の昼食時を交代してくれる。食事、トイレ休憩である。

4月27日

仕事をしながら、警備は、大事だが、ここは、外国人観光客が押し寄せるところ、ここで、日本の思い出づくりをしてあげなければ、後は、日本人との交流はないだろうと考えた。だから、警備、百パーセントで、案内二百パーセントの世界であると考えた。1956年に「メルボルン大会でスウェーデンストックホルムが共同開催した種目と理由は」(正解は馬術、馬の移送と検疫)と聞いたり、パラリンピック用トーチの点字や、読みにくい旗のケースの部分を説明してあげたり、「写真を撮りましょう」と、積極的に交流をしたり、思い出づくりに力を注いだ(後のテレビ報道で、外国から来る観光客が、一番求めているのは、日本人との交流であるとのこと。こちらが間違っていないことが確認できた)。外国人観光客に English o español? と聞く。すると、自分の(希望)言語を言ってくれる。英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語のどれが良いか相手に聴く。イタリア語とか、ドイツ語とか言われる時も多い。そんな時は、挨拶をその言語にしたり、できるだけそれらを織り交せる具合で対応した。中国語だと、筆談が少しできる。声調とか、分からないが、適当に該当の文を読んで、話しかけるようにした。「マー マー マー マー マン マー マー マー」と言う文章を読んだ。意味は、「お母さんが馬に乗ったら、馬が遅いので、お母さんは馬をののした」という意味である。面白いからと書きとめる中国人観光客もいた。韓国語で、「写真を撮ってよいですか」と読むと、先ほどは、撮る必要はないと言っていた若い女性二人とも応じてくれた。韓国では年長者は尊敬される。勿論、彼

女らのカメラで、ご自身を撮ってあげる。

思えば1964年の東京五輪では、日本人通訳は、外国語を一つ話すのみであった。その語学力不足を補おうとヨーロッパから10数名の通訳を呼んだ。彼女たちは、まぶしかった。赤坂離宮の事務局で、彼女たちは、五か国語を流暢に話すのである。それが、私の夢となった。仕事の機会にも恵まれ、五か国語を話すようになった。求めよさらば与えられん。スペイン語も、ポルトガル語もフランス語もカラオケのお蔭からか、この年で忘れていない。英語教師だから、英語は一応プロである。学習したことのある言語は、ロシア語、ギリシャ語、ドイツ語、イタリア語、中国語、韓国語である。スペイン語に近いと話に聞いていたルーマニア語は、55秒間で都庁の45階を降りてくる間に、習得出来たと冗談を言った。これはルーマニア語を冒瀆するある意味で失礼な話であるが、ラテン系の言葉は類似点が多い。ドイツ語は別系統である。数か月学習したことがあるので、今回の機会は大変有難く是非習得しようと思った。

4月28日

スマホを持ってくるのを忘れた。こちらから、朝2回と夜、会社に電話を入れる義務がある。社員証とスマホは必携。一度は、社員証を忘れたがこれも、警備の方のご親切で、都庁内に入れ意外に事なきを得た。生真面目な警備の人に「顔パスですわね」といったら、否定された。真剣な話で冗談はいけない。

観光のことを相談してくる観光客が多い。当然である。こちらも、新参で、色々、資料を集め、周りの地図を頭に叩き込んだが、極めて不十分である。東京観光情報センターが一階にあるとも説明するが、スポーツの服は、どこに売っているかなど、色々、聞かれる。教えてあげられれば教えてあげたいと思う。安く食べられるところとかの問い合わせも多い。歌舞伎町や、思い出横丁がどこかとか、新宿御苑にはどういったらよいかとか、江戸東京博物館や、刀剣博物館とか、色々、聞かれる。知っていれば教えてあげたい。東京の思い出づくりに一役買いたいのである。

4月29日

リオパラリンピックで、視覚障害 T12 のクラ
スで、銅メダルをとった、エレナコンゴストさん
が、伴走者と来訪。写真を撮ってあげる。東京パ
ラ輪に出場を目指している。

5月1日、8日、15日は、医者 MRI 等の予
定があった。広背筋の脂肪の塊の切除は、10月
まで延期してもらった。癌かどうかは、切除して、
見ないと分からないとの事で、何のための MRI
かと思う（後に10月18日日帰り手術、結果は陰
性であった）。

5月3、4、5、6、7日と、ゴールデンウィーク、
オリンピック・パラリンピック、フラッグ展示場
の私だけが朝7時半から仕事をしている。警備も
いない。観光客はひっきりなしに来て、中にいる
私にガラス越しに展望台にはどういけるのか聞こ
うとする。総合案内も8時半を過ぎなければならない。
9時半からは、南、北の展望台エレベータガイド
が就く。だが、彼らは、エレベータ側に居て、外
が全く見えない。案内は私がすることが多い。

5月9日

「キットキャット」の新宿の工場に行きたいと、
若い米人女性達から問合せがあった。これは、1
階の東京総合情報センターに行くようお願いした。
いずれ、こちらも、その情報を手に入れたいとも
思う。ニュージーランド・ダニーデンのキャドベ
リーチョコの工場見学をしたことがあるから、関
心がある。

5月10日

仕事にも慣れてきた。この体験を生かして3年
後には、10か国語を目指したいと思う。でも、
言語だけでは、観光客の思い出づくりには十分で
はない。オリンピック通にもなって、観光客と、
過去のその国のメダリストの情報を共有したい。
オーストラリアから、スポーツクライマー二人が、
若い女性のコーチとやってきた。東京五輪新種目
である。

5月11日

二人で座っているポーランドの方がいた。「ご
機嫌いかがですか」をポーランド語でどうい
うのですかと、たまたま聞くと、「やくします」と発
音するのだそうである。一度で覚えられる。私の

仕事は訳すことだから、同じである。その後、エ
レベーターから30人ほどのポーランドの仲間が
やってきた。彼らに「やくします」と大声を出す
と、皆大喜びであった。想定外のポーランド語で
ある。各国の挨拶語は、皆、覚えたい。彼らも、
覚えた日本語をしっかりと話そうとする。ところで、
鼻高になるが、「あなたの英語は完璧だ」とか、
「かっこいいですね」、「一緒に写真を撮りましょ
う」、「何か国語を話すのですか」とか、「日本人
は英語を話さないのにあなたは、ユニークだとか」
「日本人ですか」「ブラジルに居たのですか」とか、
色々、聞かれる。外国人観光客からこう言われる
と勿論悪い気はしない。来ている中学生や、高校
生の刺激になるかと、英語を話す。余り、効果は
感じられない。日本人から、「ええ、かっこいい」
になりますね、とも言われた。私の言語力を探ろ
うとする向きは多い。「何故、彼が選ばれ、私が
選ばれなかったのか」というような方がいられる
気がする。英語を話せば納得してもらえそうだが、
いつも、外国語を話しているとは限らない。日本
語の説明も多い。「あなたは、英語が話せるのか」
「五輪の英語のボランティアいつ募集するのか」
もよく聞かれる。もと、鉄棒をやっていたので短
足、猫背鳩胸。警備の方と思われる場合も多い。
実際、警備もおろそかにはできない。重要な任務
である。

5月12日

トイレに行かず、立哨するのはかなりきついが、
人間何とかなるものである。これは、自分の限界
への自信にもつながる。

5月13日

今日は、サブがしっかりついてくれ、2.5時間
の中休みがとれ、足も少し、休憩が出来た。

5月14日

交流のきっかけを求めて、「写真おとりしましょ
うか」と尋ねると、お金を取るのかと聞かれ、びっ
くりした。「日本に、チップはありません」と答
えたが、そういう見方もされることもあるのだと
思った。異文化コミュニケーションの専門家を標
榜したい者としては、未だ未だ、勉強不足か。こ
の日も、二人が交代に入ってくれ、3時間ほど、

休憩を頂いた。本来毎日4時間休憩の筈であった。

5月15日

信濃町の病院に行く。その後、御茶ノ水の丸善で弟と待ち合わせる。彼は大器晩成型。名古屋のある大学大学院の経営学の教授で、学長補佐である。その後、御茶ノ水での中学時代の友人のお母さんの通夜に行く。結局、この日はゆっくり休む時間が取れなかった。

5月16日

南展望台は、今日は運休。

5月17日

ニュージーランド五輪代表団が、来訪。私の五輪フラッグブース前で小池都知事に会う前の時間調整をする。ニュージーランド首相が来られる前に、代表団の方々と話をする機会があった。一人が、ボート関係者。私がホームステイしたボンド氏の甥っ子がボートの世界大会に出場している。彼は金メダリストで有名人との事。そのボート関係者と親しくさせて貰った。その夜、その彼は、テレビで、安倍首相と、NZ首相と3人で一緒に映っていた。その数日前には、虎ノ門のIOC委員と写真を撮って頂いたり、懇意にさせて貰った。これも、天にも昇る心地であった。彼らはスマホで私を入れた写真を撮った。私には当然その写真はない。

5月18日

都市鉱山のセレモニーがあった。スマホや、携帯から貴重な資源を取り出し、メダルにあてようとの企画で、都だけで3万台が集まった。ニュージーランド首相にも提供頂き、「五輪でメダルを取って回収します」とのお言葉があったとの小池都知事のお言葉であった。当時、小池都知事は、順風漫步、日の出の勢い。私は、毎日、3度ほど、小池都知事を目にした。

5月19日

築地からやってくる観光客が多い。「朝食は、いくらだった」と聞くと、「4,100円」だそうだ。「高い朝食ですね」というと、1,400円の方は、列が長すぎて諦めたとの事。一般的に、日本で安い食事にありつけるのに満足している人は多い。「外国では、皆高い。ここだと、安くて食べられ

る。でも、サラダの量が少ない」ともいう。確かに、カナダのマックは、日本のマックより3倍くらい大きい。

今日は、「今まで生きてきた人生で」とんでもないことが起きた。韓国からのサングラスをかけた、中年女性5人である。サングラスなので、私の、シミしわは分からない。「あなたは、とても、ハンサムだわ。握手して頂戴」と、握手攻めである。写真も撮って頂いた。「これは、分かりいい」日本ではこういう体験は皆無である。ちっとも、もてた経験がない。嬉しいではないか。いきなり、韓国有名俳優のいびょんほんになった気分、夢心地だが、夢ではない。「26字覚えれば韓国語は簡単よ」と言う。早速、韓国語を勉強する気になった。韓流ドラマや、時代劇は見たことがある。これは、覚えなくてはと強く決意した。

リオ五輪のトーチがガラスケースから、フラッグツアー用に取り出された。持たせてくださったが、1キロ程度であろうか。しばしば、観光客にトーチの重さは聞かれた。これで、一応答えられる。

5月20日は、全館休みで、こちらも、ようやく人心地付いた。

5月21日は、前から頂いた休み。水泳の江戸川会場での（今年度からのルール改正もあっての）百バタ自己ワーストの後、経済学部クラス会に行く。功成り名を遂げた面々が集まった。会の後、三田評論に掲載しろと言う。経済学部Q組の同窓生は、多士済々である。金井義邦君は、三菱商事の副会長となった。豊田君は、トヨタ自動車の社長の先輩じゃないかという、朝鮮王の子孫だと言う。〈勝手に言え〉大和証券から、権威ある大和総研を作り上げた須原君もいる。しかし、三田評論2017. 8, 9月号には、彼らの名前は書けなかった。但し、3名の名前は掲載できた。以下、一部下記に抜粋させて貰う。

物故者への黙禱の後、アニメ「ONE PIECE」の仕掛け人、大山君の軽妙な司会で始まる（実は、2年前、12月に、NHKの先生による江戸大での授業に、大山君が実の担当者と来られると聞いたので、その授業にお邪魔させて貰った事がある）。

元 NHK 副会長今井義典君の開会の挨拶の後、
— 中略 — 70 年代早々、我が国で初めてコンピュータのマルチ・オペレーションに成功した梶山君の開会の辞でお開きとなった。

5月22日

北館の展望台が今日は、お休みである。そうネットに載っていると外国人観光客に言われ、総合案内にお聞きすると「やっている」と仰る。私も、観光客にそう伝えていると、やっていない事が分かった。その後、総合案内が、一般の方にもお配りしているとエレベータの運休予定表を出してきた。そこには、今日が休みであることが記載されていた。このようなものがあったのに初めて頂いた資料である。問題なのは都庁は相変わらず縄のれん。横のつながりが無い事である。

5月23日

「福岡の修猷館高校に1964年のオリンピックの旗がある」との若い女性。これはなんでだろう。五輪旗は、本来代々引き継がれるもの。レプリカか。確かめる必要あり(12月20日、直接、高校にお電話させて貰い、その経緯をご丁寧にお教え頂いた。修猷館高校は、九州屈指の名門校で、多くの有名人を輩出している。安川電機社長、九州電力会長の安川第五郎氏が1964年東京五輪組織委員会会長で、五輪の見事な運営に感心したブランドー IOC 会長から寄贈されたもの。当時、同氏は同校同窓会会長もされておられ、個人で大事なものを持つのも、大変なので、良かったらと、高校に寄贈されたとの事、毎年、9月の同校運動会には、五輪旗が使われたそうだが、傷んで、校内の体育館に保管され、今はレプリカが使用されているとの事。安川氏は、数度、講演に同校を訪れたとの事であった。私は安川氏のお名前前で、通訳を委嘱されており、賞状として自宅に長く飾ってある)。

5月24日

トーチが戻ってきた。外国観光客が2階の入り口から入った後の動きを再確認した。色々、周りを見てから、誰も案内してくれないので諦めて動き出す。総合案内には行かない。誰かが教えてくれるだろうかとの、日本人の親切心を押し量って

いるかの如くである。行って助けてあげなければポイントを失う。日本人が見られている。こういった時には行かなければいけない(ニュージーランドでは、20メートルぐらい離れたところから近づいてくる人に、ドアの所に待って、先に入れてから、自分が入るというところを、何度も見た)。だが、総合案内まで行くのを待っていればよいと出過ぎた行動としてエレベーター係に、止められてしまった(実際に、離れた総合案内に行く人は少ない。他の方向に歩き出していってしまう)。おもてなしとは遠い世界を、わざわざ作っているとしか思えない。

5月25日

トルコから、若い女性の建築家がやってこられた。日本で昔流行ったトルコの「うしゅくだら、ひでりけーー」という歌知ってられるか聞いた。残念、良く分からないようだった。「都庁ビルは世界的建築家だった丹下健三の設計のビルで、27年前にできた。一部の方が大聖堂と言っている。地震の多い日本では高層建築の地震対策が進んだ結果、30年前から、高層ビルが多く建てられるようになった」と語った。仕事に就いて1か月、疲れも出てきて、正直、身も心もくたくたである。ところで、都庁ビル、共振など起こす可能性もあるので震度7に耐えうるのだろうか。彼女は、ビルの1階に行く後ろのらせん階段を、楕円形の階段と呼んでくれた。

5月26日

同じく、1964年の五輪通訳で、以後も一緒に仕事もさせて頂いた有名人が小池都知事に会いに都庁に来られ偶然お会いした。20年ぶりか奇遇である。

5月27日

休日は、全国観光コーナーが、9時から、展望台は9時半から、朝8時からそれまで私のみ。早く来られる観光客に、声が聞こえないのでジェスチャーで対応する。その数、数えてみると50名以上。

5月28日

大阪の娘家族と妻に会いに予定の休みを取る。マスターズ水泳の試合に出るのを利用しての京都

行きである。久しぶりに妻と京都西京極で会う。水泳結果は、これも自己ワースト（11月自己ベスト更新）だが、同年齢区分出場者は二人なので銀メダル。鈴虫寺を見る。苔寺は、許可を取っていないので見られない。鈴虫寺の住職の話は面白い。

松尾大社で初宮参りに来られた家族の写真を撮ってあげる。夕方、娘家族とバイキング。

5月29日も休みを取る。

国宝東福寺を散策。京都は、本当にすごい。多くの名所がある。瀟洒な和食の店で鯛の粗煮を食べていたら、引き戸を開けて、外国人夫妻が、入ってこられた。沢山のクレジットカード入りの名刺入れサイズの財布を無くしたとのこと、急ぎ、駅近くの交番にお供して行くと、有難いことにあった。5分前に届いたそうである。良かった。食事中のその店に戻る。東福寺で、我々夫婦の写真を撮ってくれた別の外国人男性がその店にいた。彼はその店を出て、店の写真を撮ろうとしていた。財布が見つかって事なきを得たことはとても嬉しい事なので、急いで何が起きたかを彼に話すと、This is Japan. と言っておられた。だが、この人が店の写真を撮る機会を私が話しかけて中断させてしまった。英語国民ではないので、もしかすると、料理ガイド、ミシュランに掲載したい店では、なかったのか。余分な話をしてしまったかもしれない。とても、気になる。店では、主人と奥さんが「見つかって、とても良い気持ち」だとコーヒー缶を2つ、妻と私に下さった。

5月30日

私の誕生日。72歳の年男である。明日で勤務が終わる。私がおもひないとどうなるか。敢えて、おもひない形をとってみた。しゃべらないから、その方が楽である。だが、明らかに皆と交流する方が誰が見ても良い。今まで、必死にやってきた。食事を含め、1日1時間だけの休憩にも慣れた。人間やろうと思えばできる。

5月末日で辞める日がやってきた。この日は、初めてメインでなくサブとしての応援交代10時から16時までということとなった。実に楽だ。最後だから、良い思い出づくりをしようと考えた。

台湾から、美女がやってきた。彼女は、リオ五輪に行った団体広報関係者。彼女と一緒に写真を撮った。もう一人の台湾女性も私との写真を所望した。初めて、「今日最後なので、私の写真も撮って欲しい」とお願いした。「あなたたちは、私のエンジェルです」今日は、最初で最後、1964年の東京五輪での日本のバッジを付けて都庁に行った。彼女たちは、その写真も撮った。何かに掲載されるのかもしれない。

6月2日

部長から、次の人がへばっている。「いらしてください。音を上げてますよ。助けてほしい」との連絡を貰った。「私は、体力系、その人は、文系でしょう。宜しくお伝えください」と言った。部長の温かい言葉で、今までの苦勞が報われた気がして、とても、嬉しかった。これが、5週間の私の東京五輪広報の顛末記である。

終わりに

外国の観光客は日本では思い出づくりは出来ないのではと危惧する。いきなり、こちらから、話しかけては、相手も警戒する。皆が集まる際に大いにコミュニケーションをとって欲しい。でも、ものを言わぬが花の日本、これは相手には伝わりにくい。竹村健一氏の「日本の常識は、世界の非常識」を想起する。相手の必要性を理解しない語学力で何がおもてなしになろう。外国語が分からないで十分思いやりが出来ようか。

東京五輪開催決定の発表をした当時のロゲ会長は、「経験から学んで欲しいとしていた」「いったいどう学ぶつもりなのだろう」。日本は閉鎖社会、勘違いしないで欲しい。日本人は、決して丁寧な国民ではない。無礼な国民だと誤解されてしまうこともある。英語標記は未だ不足している。異文化を知らな過ぎる。例えば向こうの人は写真を撮ってあげると、しっかりと確認してくれて、こんな素晴らしい写真を撮ってくれて有難うと皆が皆言う、大きなジェスチャーで、喜びを表現する。日本で、そうする人は、一家族しかいなかった（日本人の私はその必要があるとも思わないが、

外国の人はそう思うと思う)。言わなくても分かるとする社会と、言わなければ分からないとする社会、日本は、変わった社会なのである。異なる言語、異文化を大いに学び、おもてなし、思いやりで海外から評価されて欲しいと強く念じる。

その後

7月に、隣の町で7か国語を標榜するヒポクラブの方々とお会いした。スペイン語やポルトガル語、韓国語や中国語は彼らには普通の世界である。外国語は誰でも学べる。私が、鼻高になる理由はない。彼らも私も多言語を話す普通の存在である。

自宅のある市の男女共同参画センターで、生徒さんを募集してよいと言う。どうせ集まらないだろうと思っていたスペイン語同好会、3歳から75歳、7名の方が受講してくれている。スペイン語を指導するとは、私には、初体験。この機会は、

昔のドーナツ盤の教材のソノシートやレコードをCDにしたり、ネットから歌詞を取ったり色々、教材を用意する楽しさを提供してくれる。老若男女の生徒を前に第3の人生を迎えているような感じがする。授業が少なくなって時間もある。他の言語も、習得したい。11月にドイツの方の、ドイツでのクリスマスの話があった。その機会を利用して、ドイツ語を一生懸命学ぶ。市在住のドイツの先生の車が講演会場前で傷をつけてしまった。ドイツ語では言えないことだらけである。しかし、少し、使うことができた。これが大きい。失敗は成功の元である。学生の皆さん。英語は使わなければ、一生覚えぬ。少し、使うと、又、使う機会が生まれる。正しい英語を学ぶ機会である。2度目は、正しく表現しよう。それで身に付く。2020年のオリンピックに向けて、今や世界の共通語になった英語。まずこれを習得しよう。五輪で生かして見よう。

(言語習得を) 求めよさらば与えられん。